

大豆・麦・稲**栽培の強い味方!!****キヒゲン[®]R-2フロアブル**

有効成分：チウラム…40.0%

人畜毒性：普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称）

殺菌剤分類

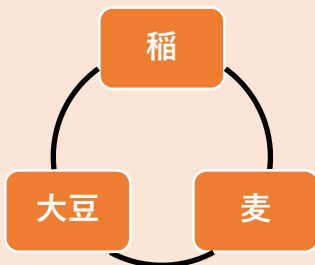
M3



病害感染および土壤中の種子腐敗防止！！
播種時の鳥類・害虫の食害から種子を守る！！

大事な実りの第一歩！
最初が肝要です！

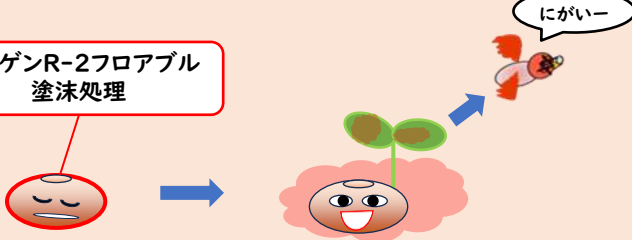
規格：1ℓ(50kgの種子処理が可能)・200ml(10kgの種子処理が可能)・50ml(2.5kgの種子処理が可能)

キヒゲンR-2フロアブルの特長**① 幅広い作物に使用可能**

- 豆類(種実及び未成熟)
(例：落花生など)
- 雑穀類(例：そばなど)
- とうもろこし
- 飼料用とうもろこし
- ソルガム
- ひまわり等・・・

*登録内容は、裏面参照

幅広く登録を取得しており、様々な種子に1年を通して使用可能です。剤を余らすことなく、ご使用いただけます。

③ 鳥類の食害防止と忌避効果キヒゲンR-2フロアブル
塗沫処理

種子および子葉が赤くなることで鳥が驚き近づきにくくなります。つついた際には、苦みを感じることで鳥類からの食害を防止します。

② 種子伝染病害・土壤中での雑菌感染を防ぎ、種子腐敗を抑制

大豆栽培での根張り状態

試験場所：米澤化学自社圃場

調査日：播種後約1か月

左：無処理

右：キヒゲンR-2フロアブル処理



種子伝染病害に加え、初期の土壤伝染性病害(苗立ち枯れ病等)から種子を守ることで発芽率の向上に繋がります。

④ タネバエ、ヤギシロトビムシの食害防止

左：タネバエ幼虫



右：シロトビムシ成虫

塗沫処理を行なう事でタネバエおよびヤギシロトビムシからの被害を防除し発芽率の向上に繋がります。

*殺虫効果はありません。

◆登録薬量を守らず処理を行なうと、効果が十分発揮できず、まき直しなどのリスクが高くなってしまいます。効果を最大限発揮させるため登録薬量を守り処理を行なうようにしてください。

【適用病害虫・鳥害の範囲および使用方法】

作物名	適用病害虫名	適用害獣名	希釈倍数	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	チウラムを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病・ばか苗病 ごま葉枯病 苗立枯病(ピシウム菌)	スズメ・ハト・キジバト カラス・カラスヒワ	乾燥種子 1kg当り 原液20ml	播種前	塗抹処理	1回	1回
*1麦類	-	ハト・キジ スズメ					
大麦	網斑病・斑葉病	*1での登録害獣					
小麦	なまぐさ黒穂病・紅色雪腐病 ヤギシロトビムシ	*1での登録害獣					
だいち えだまめ	苗立枯病・葉斑病 タネバエ	*2での登録害獣					
あずき	苗立枯病・炭疽病 褐斑病・タネバエ	*2での登録害獣					
いんげんまめ	苗立枯病・炭疽病 タネバエ	ハト・カラス キジバト					
えんどうまめ	-	-					
豆類(未成熟・ただし、えだまめを除く) 豆類(種実・ただし、だいち・あずき・ いんげんまめを除く)	苗立枯病・タネバエ	-					
豆類(未成熟) *2豆類(種実・ただし、いんげんまめ・ えんどうまめを除く)	-	ハト・カラス					
ひまわり ひまわり(種子)	苗立枯病	カラス・ムクドリ ハト	2回				
とうもろこし・飼料用とうもろこし	苗立枯病	カラス・キジ・ハト キジバト・ムクドリ					
ソルガム	-	スズメ					
雑穀類(とうもろこしを除く)	-	-	1回				

【使用方法】本剤の処理量は、いずれの作物種子に対しても、乾燥種子重量1kg当たり20ml塗抹処理です。

■ 袋での処理 (種子10kg未満推奨)



- 予め種子を(肥料袋等)に入れた後、本剤を所定量入れて、袋を膨らませた状態で口を閉じ、上下左右に十分振ってください。

■ 容器および桶を使用 (種子10kg～30kg推奨)



- ポリ容器・桶等に種子を入れ、不浸透性手袋をした手または棒で種子を混ぜながら、本剤所定量を徐々に加えてかき混ぜてください。

■ 種子コーティング機(コンクリート ミキサー等)使用 (種子30kg以上推奨)



- 種子粉衣機(コーティング機)に予め種子を入れ、回転しながら本剤所定量を徐々に加え均一に塗抹処理が出来るまで回転させてください。

- 本剤を塗抹処理した種子は、平らな容器や、ビニール・ムシロ等の敷物に広げ、風乾後播種してください。
- 本剤処理後、何らかの都合で播種出来ない場合でも、1か月程度は発芽率に影響はありません。
- 本剤と根粒菌との混用使用は可能です。(根粒菌処理はキヒゲンR-2フロアブル処理後が望ましい。)
- 稲や麦の種子を処理する際は、霧吹きなどで種子重量に対し1～2%程度の水分で予め湿らせると種子全体に均一に処理しやすい。

使用上の注意事項

- 使用量に合わせ秤量し、使い切ってください。
- 本剤を使用する場合は、粘度が高いため容器をよく振ってから取り出し、適当な容器内で種子をかき混ぜながら薬液を滴下するなどして種子に均一に薬液を付着させてください。また、種子塗抹量は薬効に影響するので、必ず乾燥種子1kgに対して本剤20ml塗抹を厳守してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量・使用時期・使用方法など誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 麦類に使用する場合、発芽抑制を生じるおそれがあるため、使用量を厳守してください。
- 稲に使用する場合、発芽や初期成育の遅延を生じることがありますが、その後回復するため通常の管理を維持してください。
- 処理に利用した容器・機械は、付着物の乾燥後の洗浄では落ちにくくなるので直ちに水洗してください。

安全使用上の注意事項

- 取扱いには十分注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出し直ちに医師の手当を受けてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので、薬剤使用時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに十分水洗いし眼科医の手当を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- 使用の際は保護眼鏡、農業用マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣等を着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼、うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 本剤で処理した種子は食料や動物飼料として用いないでください。
- 本剤処理種子については、子供などが誤食しないよう十分注意してください。
- 誤飲等をさけるために、小児の手の届かない冷暗所に保管してください。

水産動植物に対する注意事項

- 水産動植物(魚類・甲殻類・藻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼、及び海域などに飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 養殖池周辺での使用は避けてください。使用残液及び容器の洗浄水等は河川等に流さず適切に処理してください。

保管上の注意事項

- 直射日光をさけ、冷暗所に保管してください。
- 40℃以上で保管すると成分が凝集凝固沈殿することがあります。また、0℃以下で保管すると固まりが発生することがあります。このような場合は、袋を上下に振る、または、揉むことで均一な液状に戻るようであれば品質および使用に影響はありません。
- 冬季使用の場合は、数日前から室温(15～25℃)程度で保管をしてください。

問合せ先 米澤化学株式会社

本社 京都府京都市南区唐橋芦辺町14番地
TEL:075-681-9536 FAX:075-681-7377
HP: <http://www.yonezawa-chemical.co.jp/>

